

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	01	104400	学校文化活動事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	02 学校教育の充実	
	施策	02	豊かな人間性の育成			
目的	児童生徒の文化活動の振興・発展を図るため、補助金を交付し支援する。					
対象	文化活動を行う児童生徒					
意図	多くの児童生徒が芸術文化活動を行い、芸術文化に親しみを持つようになる。					
事業概要	花巻市中学校文化連盟事業補助金 50千円 市中学校文化連盟が実施する各種事業に対し補助 音楽コンクール等出場事業補助金 24千円 市内中学校のコンテスト出場経費の一部を補助					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	補助件数（中文連）	件	計画	1.00	1.00	
			実績	1.00	1.00	
2	補助件数（音楽コンクール等）	件	計画	4.00	4.00	
			実績	8.00	1.00	
3	美術作品展示校数	校	計画		10.00	
			実績		0.00	
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
補助金交付事業のため、活動指標の補助件数をもって成果とみなす。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	文化活動の充実は、特色ある教育の展開と心の教育の充実に繋がる。児童生徒の合唱や演劇等への取組を支援することは、豊かな情操を養うことに資するものであり、市としての関与は必要である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	日ごろの練習の成果を発揮し、発表する大会が開催されることで、文化活動の一層の振興が図られることから、成果の向上余地がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	大会運営のための事業費は、必要最小限で計上されており、余剰金も無いことから削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	中文連は市内全中学校で構成する組織であり、補助対象は市内の児童生徒であることから、受益機会は、均等である。費用負担については、受益者負担が主で、これに対し市が一定の割合で補助金を交付するものであることから、均衡はとれている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	発表の場を提供するなどの連盟の取組等に対し補助金を交付し、中学校における文化活動を支援することで、感情や情緒を育み、心を豊かにする情操教育の充実を図った。
	次年度に向けて	児童生徒の文化活動が円滑に行われ、活動内容の更なる飛躍、ひいては児童生徒の情操教育の充実化に繋げるため、継続した支援が必要である。

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	01	03	104860	キャリア学習支援事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	02 学校教育の充実		
	施策	02	豊かな人間性の育成				
目的	自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力（生きる力）の育成を図るため、市内外における各種活動を支援する。						
対象	市内小・中学生						
意図	自ら学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力（生きる力）を身に付ける。						
事業概要	体験的な学習の充実 5,458千円 各小・中学校が総合的な学習の時間等に農業体験、伝統芸能継承活動、職業体験、福祉体験、被災地訪問や防災に関する授業等を実施 生徒会ボランティア活動支援 179千円 各中学校生徒会が自ら企画・実施するボランティア活動（地域清掃、花壇整備、除雪等）に対する支援						
市民参画の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H31	R02	R03
1	取組学校数	校	計画	30.00	30.00		
			実績	30.00	29.00		
2	参加児童生徒数	人	計画	16,000.00	16,000.00		
			実績	16,395.00	14,281.00		
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	H31	R02	R03
1	自分が住んでいる地域には良いところがあると思うと答えた児童の割合（小学校）	%	目標	95.00	95.00		
			実績	92.00	92.00		
2	自分が住んでいる地域には良いところがあると思うと答えた生徒の割合（中学校）	%	目標	87.00	87.00		
			実績	85.00	88.00		
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
地元での体験活動や他地域を見学し、自分の住んでいる地域の良さを改めて知ることになった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	学校教育法第5条により、学校設置者による負担を義務付けられた義務教育費であることから、市が関与することは、妥当である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	各校において独自の創意工夫により計画・実施しているところであり、量的な取組状況としては一定の成果をあげているところだが、他校の事例を参考にすることなどにより、質の向上を図ることが可能である。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	地域体験学習用のバス代が高騰し学校からは事業費の増額について要望があるところであり、保護者負担額の増額を回避するためにも、これ以上の事業費の削減は、難しい。 また、学校の授業であることから、教員の関与が必ず必要であるため、アウトソーシングによる人件費の削減には馴染まない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内の全小中学校において取り組まれている事業であり、受益機会は適正である。 また、義務教育学校における教育課程実施上の必要経費であり、学校設置者が負担すべき経費であることから、費用負担も適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	地域の人材の活用や伝統文化の体験を通じて、児童生徒が自ら学び、考える機会を提供した。また、震災と向き合うことで、命の大切さを実感するとともに、自分自身が地域や社会との関わりの中で生きていることを学ぶことができた。
	次年度に向けて	地域の特性を踏まえ、様々な体験活動を通じた学習を推進することにより、児童生徒の生きる力を育む必要がある。